

本土復帰40年、基地のない沖縄を

野田政権は沖縄県民の総意を尊重せよ

野田政権は、アメリカから新基地建設の進展を求められ、辺野古の環境影響評価書を12月28日の早朝4時に県庁守衛室に運ぶという異常な方法で沖縄県に提出しました。

これは、県内移設反対の県民総意を無視した、民主主義破壊の暴挙です。また、改造内閣で新しく防衛大臣になった田中直紀氏は、早速辺野古新基地建設の年内着工などと発言し、県民の怒りを買っています。

いま、野田政権のやるべきことは、日本国民の立場にたって、世界一危険な普天間基地の撤去をアメリカと交渉すべきではないでしょうか。



とんでもない!

オスプレイ配備で騒音大幅増

高江のヘリパッド工事再開は許さない

新基地建設の立場に立った評価書の中からも、騒音被害など重大な問題が明らかになっています。

沖縄県名護市辺野古に建設が狙われている新基地にMVオスプレイが配備された場合、提出された「評価書」によると、従来機のCH46ヘリと比較して騒音レベル(W値、うるささ指数)や心理的・生理的に不快感を与える低周波音が大幅に増えることが明らかになりました。このオスプレイは、高江、岩国、東富士などでの訓練も想定されています。

住民は静かで安全な生活を求めています。そして、希少動植物の宝庫であるやんばるの森を守るため、ヘリパッド建設の中止、オスプレイ配備反対の声をあげ、無謀な計画の中止を求めています。



安保破棄中央実行委員会 Eメール anpohaiki@nifty.com
TEL 03-3264-4764 FAX 03-3264-4765

2012年
1月